

櫛差遺跡ほか2遺跡発掘調査現地説明会資料

私たちは文化財をおして
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。



公益財団法人滋賀県文化財保護協会
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritages

平成28年(2016年)11月26日(土)

調査主体：草津市・草津市教育委員会

／調査機関：公益財団法人滋賀県文化財保護協会

調査の概要

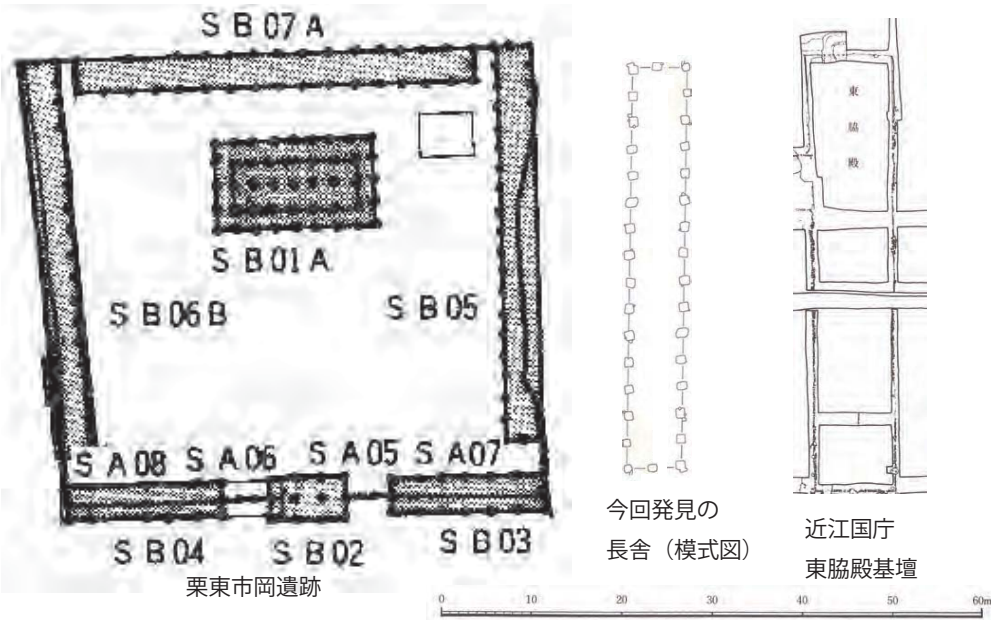
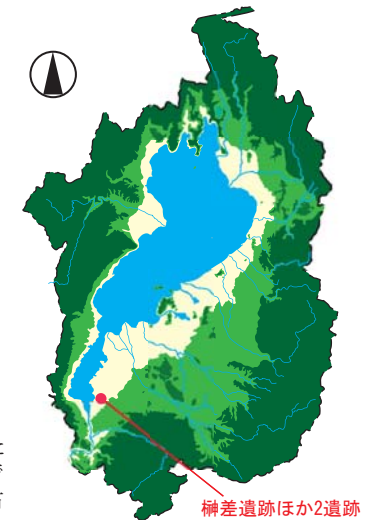
平成27年度から、(公財)滋賀県文化財保護協会では南草津プリムタウン土地区画整理組合および草津市教育委員会からの依頼により、南草津プリムタウン土地区画整理に伴う櫛差遺跡ほか2遺跡(黒土遺跡・櫛差古墳群)の発掘調査を行っています。

昨年度の調査では、飛鳥時代前半の竪穴住居、奈良時代から近世までの道路状遺構、奈良時代から室町時代までの掘立柱建物などが見つかっています。

今回の成果

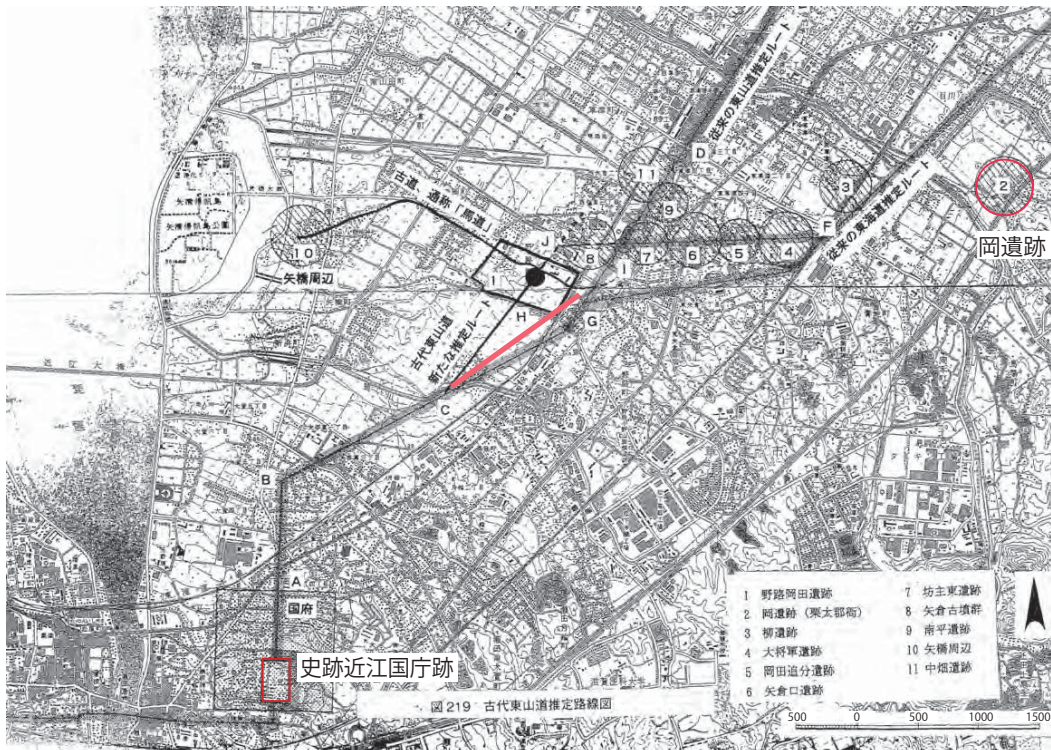
今年度は7月から8,202㎡を対象に行っており、下記の点が明らかになりました。

1. 史跡近江国庁跡の東脇殿の基壇と同じ規模をもつ非常に細長いいわゆる「長舎(ちょうしゃ)」といわれる建物跡が見つかりました。このことから、調査区付近に国庁や郡庁などに類する官衙的施設があったことがわかりました。
2. 長舎建物跡に近接して、幅員12mで、東西側溝を備えた大規模な道路跡が見つかりました。この道路跡は大規模で直線的であることから、当地に想定されている東山道(古代の7官道：東海道、東山道、北陸道、南海道、山陽道、山陰道、西海道)の可能性のある道路状遺構と考えられます。



今回発見の
長舎(模式図) 近江国庁
東脇殿基壇

県内の長舎の大きさ比較図(岡遺跡・近江国庁は各遺跡報告書より抜粋)



今回見つかった道路状遺構(東山道?)の位置と推定ライン(赤線部分)
(草津市教育委員会ほか2008より転載・加筆)

年代	時代区分	日本の主な出来事	櫛差遺跡ほか2遺跡の主な調査成果
B.C.500年	縄文		弓矢の使用(石鏃の出土)
	弥生	約2500年前 稲作始まる。 248年頃 卑弥呼死す。	
300年	古墳	前方後円墳が各地にさかんに築造される。	
600年	飛鳥	604年 憲法十七条の制定。 645年 大化の改新(乙巳の変)。	飛鳥時代前半の竪穴住居(平成27年度)
700年	奈良	667年 近江大津宮へ遷都。 710年 平城京へ遷都。 742年 紫香楽に離宮を造る。	長舎(奈良時代)、道路状遺構(奈良時代)
800年	平安	794年 平安京へ遷都。	掘立柱建物、奈良時代～平安時代
1200年	鎌倉	1016年 藤原道長が摂政となる。 1192年 源頼朝が征夷大将軍となる。	木棺墓(平安時代中頃)
1300年	室町	1336年 足利尊氏が征夷大将軍となる。	鎌倉時代から室町時代の掘立柱建物、井戸、区画溝、道(平成27・28年度)
1500年	安土桃山	1576年 織田信長、安土城に移る。	
1600年	江戸	1582年 本能寺の変。 1600年 関ヶ原の戦い。 1615年 大坂夏の陣。一国一城令。	



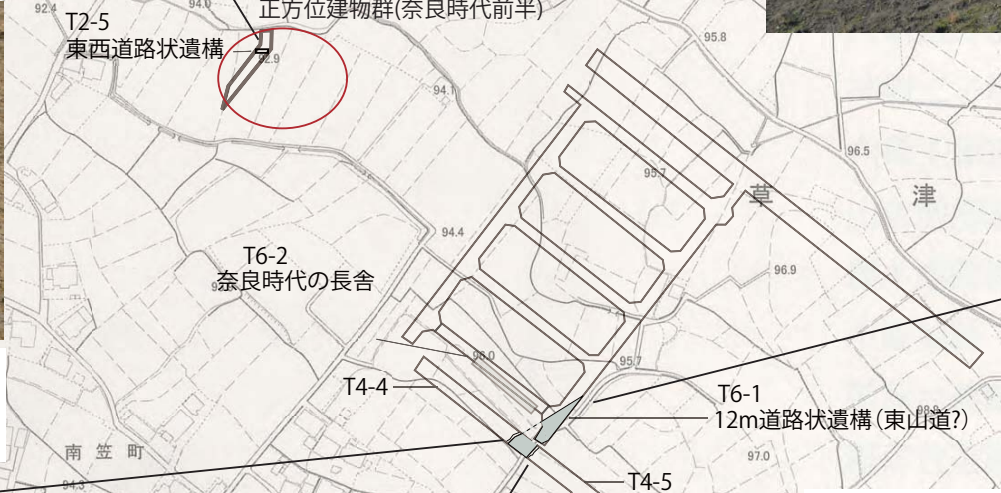
長舎(ちょうしゃ)・・・細長い建物で、桁行7間以上のもの掘立柱建物で梁間2間(6m)、桁行15間(45m)、床面積270㎡を測ります。柱穴の大きさは一辺0.8m~1.1m、平面形が方形や長方形になります。柱穴の中には柱痕が見つかり、大きさは直径0.3m程度で、1間は、10尺(3m)を測ります。建物の時期については、調査中のため明確ではありませんが、周辺から出土する土器から、奈良時代頃のものと考えられます。柱穴は34基と多いため、右のような写真を撮る際、並んでいただくと大勢の人数が必要となるほど大きな建物です。



東西道路状遺構(奈良時代前半)
昨年度の調査で見つかった幅員3mの両側溝をもつ道路状遺構です。南側には、南北棟の掘立柱建物群が、北側には柵あるいは廊のような東西棟が整然と並びます。



木棺墓(平安時代中頃)
道の部分で見つかった木棺墓です。長さ1.75m、幅0.8m、深さ0.2mを測ります。口の部分を打ち欠いた須恵器の壺などが出土しています。



道路状遺構(東山道?)
今回の調査では、西側側溝の続きが見つかりました。幅員12mでは、上の写真のように多くの人が通れます。また、道の部分から平安時代中頃の木棺墓が見つかりました。このことから平安時代には、道幅が狭くなっていたようです。



道路状遺構(東山道?)
2条の併行する溝の間が道相当部分と考えられ、現在の生活道路と重複し、幅員12mを測ります。昨年度の調査では、西側側溝(写真左)と東側側溝(写真右)が見つかりました。両側溝の幅員は約1.2m、深さ0.9mを測ります。



南北道路状遺構(奈良時代)
昨年度の調査で見つかった幅員3mの両側溝をもつ道路状遺構です。西側側溝は後に、幅を広げられ、最後は人為的に埋められています。この地点では、奈良時代が現在の舗装された道まで徐々に西に道が移り変わったことが明らかになりました。